

# 令和7年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

## 県央会場

### 科目 ①障害児の支援 発達障害のある子どもの理解と対応

- ◆ 障害のある子どもの数は社会のあり方や科学の進歩で、カテゴリーに合わない等の理由により増加の一途を辿っている。発達障害児は同時処理が苦手な相手の表情から感情を読み取ることが不得意であることによってトラブルになりやすい。ニューロダイバーシティの考えは、社会で生きづらさを抱えている子どもたちが個々の特性を尊重し社会の中で活かしていくうえで大切だと思う。学童では問題のある子どもの「一番の味方、理解者」になることを念頭に置き、保育していきたいと思う。
- ◆ これまで発達障害に関する研修を何度か受講し、子どもの行動特性について理解しているつもりだった。しかし今回の研修を通じて「子どもをどのようにみるか」が非常に大切であることを学んだ。子どもにもっとポジティブな視点から寄り添い、子どもの力を信じ、理解していく必要があると痛感した。また、支援員としての原点に立ち返り、自分の関わり方を見つめ直す貴重な機会となり、大変実りのある時間だった。
- ◆ 子どもの発達支援では「できないこと」ではなく「できること」に注目し、子どもの自発性や関係性を大切にすることが重要である。特にがんばりたい気持ちを認め、支援者がそのサインを受けとめることで、子どもの成長や自信を促すことができる。環境や関係性の中で子どもが安心して自己表現できる支援のあり方が求められている。
- ◆ 発達障害は周囲の環境によって、日常生活の問題の中に見え隠れするというのは真実だと思う。知識もだいぶ得られ、対応できることも増えてきたが、感情がついてこないこともある。できないことを教えるよりも、できることを増やしていく、子どもが自ら手を離すまで、まさにこれに尽きると考えさせられた。集団の中での支援は、難しいことが多いと感じる。それでも参加できる場所を作り続けていきたいと思った。
- ◆ 発達障害のある子どもは微妙な濃淡が苦手な、極端な考え方が自分自身を苦しめている場合がある。世の中の物事の多くは白黒はっきりしていないことを、子ども自身が理解するために折り合いをつけられるまで説明し、支援することが大切であることを学んだ。子どもが求める「いい意味の特別扱い」を目指し、一歩踏み込んで理解を深め、一番の味方の存在になれるよう寄り添って支援していきたいと思う。